

係を崩す事が問題となる。そのため加强固定として顎外、顎内や顎間装置などが用いられる。しかし成人症例においては社会的、審美的受け入れられない事が多く、十分な患者の協力を得ることは困難で、満足の治療結果が期待出来ない場合がある。今回、我々は、著しい上下顎前歯部の唇側傾斜で確実な固定源が要求される成人症例において、矯正用口蓋implantを使用して良好な治療結果が得られたので報告する。

【症例】初診時年齢20歳6か月、前歯部の突出を主訴として当科を受診。SNA 82.0°、SNB 83.0°、ANB -1.0°、FMA 24.5°、Overbite +5.0mm、Overjet +1.5mm、A. L. D. は上顎 -0.9mm、下顎

0.0mm、臼歯関係はClass I上下顎前突症例。

【治療経過】矯正用口蓋implantを埋入後、加强固定のためimplant用パラタルバーを左右上顎第一臼歯に連結し、上下顎第一小臼歯を抜去しマルチブラケット装置により、上下顎犬歯および前歯の遠心移動を同時に行った。

【結果および考察】本症例において矯正用口蓋implantを用いて臼歯の加强固定として使用する事により、顎外装置などによる患者の協力なく上下顎臼歯の近心移動を最小限にする事ができ、動的治療期間が短縮され、良好なプロファイルと咬合関係を得ることができた。

Proceraシステムを使用した審美修復

—北海道医療大学歯学部附属病院で行われたオールセラミック修復とインプラント補綴—

○廣瀬由紀人*, 越智 守生*, 國安 宏哉*, 松原 秀樹*, 新井田 淳*, 仲西 康裕*, 田中 隆**, 柿崎 税**
*北海道医療大学歯学部歯科補綴学第2講座, **北海道医療大学歯学部附属病院歯科技工部

【目的】歯科補綴学第二講座は、CAD/CAM技術を応用したNobel Biocare社のProceraを2004年5月に導入し、本システムによるオールセラミック修復とインプラント補綴を行っている。ProceraのAllCeram Crownは1983年に開発され、1994年にNobel Biocare社が本システムを導入、同年に設立したミシガン大学のCenter For Excellenceの臨床研究によると世界40カ国で170万本以上のProcera AllCeramクラウン、ブリッジ、ラミネートベニアが装着されている。2003年末に新しいCAD/CAMスキャニングシステムのProcera Piccoloが発表され、日本でもこのシステムが確立されつつある。今回、Proceraの新システムの概略ならびに本学での臨床例について報告した。

【方法】対象は2004年5月から12月までに北海道医療大学歯学部附属病院を受診し、Proceraで製作した審美修復物とインプラント上部構造を装着した症例とした。

【結果および考察】修復物の総数はクラウン20、ラミネートベニア

1、インプラント支台が7であった。全ての症例で脱離、破折および臨床的不快症状は認められず、良好に経過している。Proceraの付加価値はCAD/CAMが寄与する技工操作の省力化であり、技工士は陶材築盛の色調再現、歯冠形態とオクルージョンに対して時間を集中して使える点にある。そしてProcera AllCeram Crownは天然歯に類似した自然な透明感の再現性に優れ、滑沢な表面性状は舌感が非常に良い。患者はAllCeram Crownの審美的要件、感覚的要件に対して十分に満足していた。しかし、従来の陶材焼付鑄造冠と比較してProcera AllCeram Crownは適合精度が劣るため、支台やクラウンマージンを修正した場合があった。現在、患者の歯科医療に対するQOLの要求は向上し、歯科審美、インプラント補綴を希望する人、さらには金属アレルギーの既往者が増加している。このような背景から、Proceraの修復システムは今後の補綴臨床において非常に有効であると思われる。

早期負荷を行ったボーンアンカーダブルブリッジの印象用カスタムトレーについて

○近藤 里峰*, 國安 宏哉**, 新井田 淳**, 柿崎 税****, 廣瀬由紀人****, 越智 守生****, 吉田 純也****, 田中 隆****, 田中 春樹****, 溝口 到****, 平 博彦***, 村田 勝***, 北所 弘行***, 草野 薫***, 工藤 勝***, 大桶 華子***, 細川洋一郎***, 田中 力延***
*北海道医療大学歯学部附属病院歯科技工研修科, **歯科補綴学第二講座, ***附属病院インプラント歯科外来, ****歯科技工部, *****矯正歯科学講座

【目的】今回、インプラント上部構造を依頼された症例に対して、下顎複製総義歯を利用したカスタムトレーを製作し、作業日数3日で上部構造を製作したので報告する。

【症例】初診時79歳、上下無歯顎の男性。担当医より下顎インプラントに対する上部構造作製について相談を受けた。早期負荷を行うため、埋入から数日で上部構造を装着した症例である。

【経過および考察】治療計画初期から技工士も補綴物作製者として症例検討会に参加し計画に加わった。担当医がシミュレーションしたSIMPlant画像によって導かれた埋入予定部位に印象用コーピング

を想定し、複製総義歯内面にコーピングスペースを設定してカスタムトレーとした。16年11月18日に埋入手術が担当医にて行われた。埋入後、直ちにカスタムトレーにて咬座印象採得が行われ、即日作業用模型作製、咬合器装着、wax up、埋没、鑄造を行った。19日に試適、ロウ付け後、再度外来でフレーム試摘し、22日に上部構造を完成した。トレーと印象用コーピングの適合状態、完成上部構造の調整の少なさから、作製者も治療計画に加わり、治療内容を理解することは有効と感じられた。